

---

ER17076 安井 理

# お詫び

---

- ・本日自分のミーティング週であるにも関わらず、発表する成果がゼロとなってしまいました  
関係者の皆様、楽しみにしていた皆様の期待を裏切ってしまうような形になり  
大変責任を感じております。PC一同お詫び申し上げます。
- ・実際に進んだことはLAN環境の整備だけとなってしまいました。
- ・気持ちを切り替えてやっていきたいと思えます

# 前半週

---

- ・LAN環境の整備
- ・有線LANドライバのインストール
- ・いろいろなサイトでドライバのインストールが書いてあったがつながらなかった  
⇒ドライバのソースコードを少し書き換える必要あり

# ドライバインストール手順

---

- ・NICの種類を確認する

\$ lspci | grep Ethernet

調べたサイトと同じIntel I219なのを確認できたため次

- ・インテルのサイトからドライバをダウンロードする

<https://downloadcenter.intel.com/ja/download/22283/-?product=82186>

# ドライバインストール手順

---

- ・ダウンロードが完了したら展開
- ・展開されたファイルの中から./PRO1000/LINUX/e1000e-3.6.0.tar.gzを取り出す
- ・ e1000e-3.6.0.tar.gzを展開しターミナルでディレクトリに取りに移動する  
\$ tar zxvf e1000e-3.6.0.tar.gz  
\$ cd e1000e-3.6.0/src/

# ドライバインストール手順

- ・このままビルドするとエラーを起こしてしまうためソースコードの修正が必要

./e1000e-3.6.0/src/ここに移動したら

\$ vi nvm.c でコードを開く

- ・赤枠の部分をすべて消す

```
s32 e1000e_validate_nvm_checksum_generic(struct e1000_hw *hw)
{
    s32 ret_val;
    u16 checksum = 0;
    u16 i, nvm_data;

    for (i = 0; i < (NVM_CHECKSUM_REG + 1); i++) {
        ret_val = e1000_read_nvm(hw, i, 1, &nvm_data);
        if (ret_val) {
            e_dbg("NVM Read Error\n");
            return ret_val;
        }
        checksum += nvm_data;
    }

    if (checksum != (u16)NVM_SUM) {
        e_dbg("NVM Checksum Invalid\n");
        return -E1000_ERR_NVM;
    }

    return 0;
}
```

# ドライバインストール手順

---

- ・修正が完了したらビルド

```
$ sudo make install
```

- ・カーネルモジュールの追加

```
$ sudo modprobe -r e1000e
```

```
$ sudo modprobe e1000e
```

- ・うまくいって行っていればここでつながる

# ドライバインストール手順

---

- ・再起動しても新しいドライバが読み込まれるように固定化

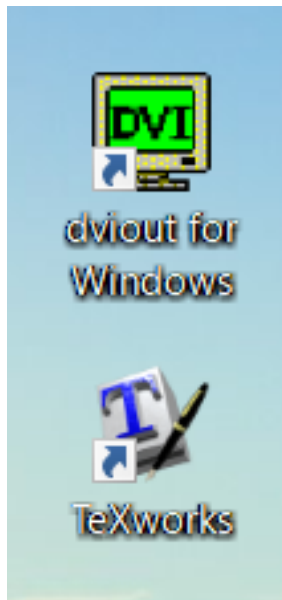
```
$ sudo update-initramfs -u
```

以上で作業は完了



# Texの使い方おさらい

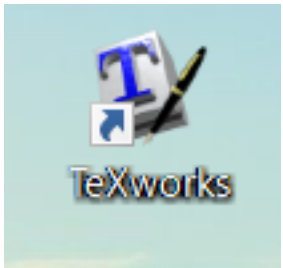
---



- 「dviout」 「Texworks」
- この二つのアプリがあるか確認

# Texの使い方おさらい

---



- ・「Texworks」
- ・テキストの作成はここで行う、メモを使って書いてもできる  
試しに

```
¥documentclass{jarticle}  
¥begin{document}
```

山内研究室です。

```
¥end{document}
```

と書き込む

# Texの使い方おさらい

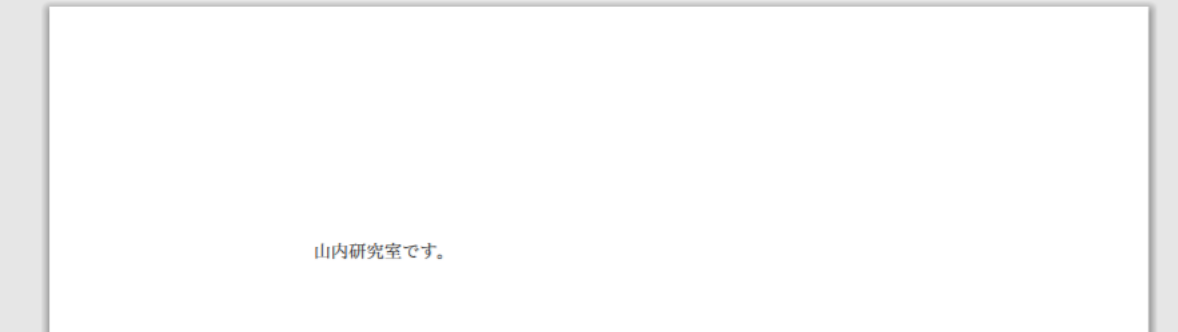
---

- ・コマンドプロンプトを開く
- ・保存したディレクトリにcdコマンドで移動
- ・移動先で\$ platex「ファイル名」を実行
- ・\$ dvipdfmx「ファイル名」でPDFファイルが作成される

# Texの使い方おさらい

---

- ・このように表示される



山内研究室です。

- ・文章を作成する際は情報スキルの際に配布されたチートシートを参考  
または、Texテンプレートなどの検索で作りやすくなる

# 後半週

---

## SSD-6Dの実装

⇒トレーニング用のコードを触ることができない

また動かすだけでも、やろうと思ったが出来なかった。

そのためSSD-6Dの論文は、ある程度理解しまとめ終わる

- ・鈴木さんのコードで負荷をかける実験をしようと思ったが

今までできていたものがエラーが出るようになってしまった

```
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 検索(S) 端末(T) ヘルプ(H)
, line 275, in get_device_from_id
  check_cuda_available()
File "/home/milab/.local/lib/python3.5/site-packages/chainer/backends/cuda.py"
, line 138, in check_cuda_available
  raise RuntimeError(msg)
RuntimeError: CUDA environment is not correctly set up
(see https://github.com/chainer/chainer#installation). CuPy is not correctly installed.

If you are using wheel distribution (cupy-cudaXX), make sure that the version of
CuPy you installed matches with the version of CUDA on your host.
Also, confirm that only one CuPy package is installed:
$ pip freeze

If you are building CuPy from source, please check your environment, uninstall C
uPy and reinstall it with:
$ pip install cupy --no-cache-dir -vvvv

Check the Installation Guide for details:
https://docs-cupy.chainer.org/en/latest/install.html

original error: libcublas.so.10: cannot open shared object file: No such file or
directory
milab@aaron:~/chainercv/examples/faster_rcnn$
```

# . 今後

---

- 1   ・もう一つのRGBのSSD論文を調査する
- 2   ・SSDを理解し拡張できるようにする